

☆お知らせ:冬休み長期貸出・冬休み開館日程

- ◎冬休み長期貸出受付中: 6冊まで 返却期限日: 1月8日(水)
- ◎冬休み開館 12月23日(月)・24日(火)・26日(木)・27日(金)
開館時間: 9:00~16:00

☆地震にどう対応するか? 考えてみましょう! & 地学・鳥の巣の本 新着本の棚

◎10年後の巨大地震の減災のために、あなたは何を計画し、どう実行しますか?

①  『M(マグニチュード)9の地震に備えよ 南海トラフ・九州・北海道』 鎌田浩毅著 PHP 新書
これまでの各地の地震の発生状況から見て、2つのプレートの関係する南海トラフ巨大地震の発生時期は、内陸直下型地震(1994年阪神淡路大震災)からおよそ40年後になる可能性があります。その時、あなたはどのようにしていきましょう? 仕事は? 家族は? まず生き延びて、周囲の人々と社会のために行動しなければなりません。そのために、今何ができるか、考えてみましょう。日本列島の地震のメカニズム、今注意すべき地域、減災のための方法など、盛りだくさんの内容が、豊富な図と共に読み易く面白く書かれています。

◎地殻変動・噴火活動あるいは氷河が作った地形、氷(河)期の生き残りの動植物達……特色豊かな日本の自然について見てみましょう!! 旅行の前にも是非どうぞ!!

- ②  『見るだけで楽しめる! ニッポンの氷河時代 化石でたどる気候変動』 大阪市立自然史博物館編 河出書房新社: 身近なところにもある氷期の名残の地形・動植物を写真・解説付きで示す。地球規模の観点からの地形の変化と気候変動の関係など、興味深いトピックが満載の本。
- ③  『信州の絶景はどのようにできたのか』 赤羽貞幸・塚原弘昭 監修 しなのき書房: 長野県の山・川・湖・湿原・温泉・湧水・名勝の成り立ちを、美しい写真と共に地学的に解り易く解説する。
- ④  『槍・穂高・上高地 地学ノート』 竹下光士 写真・分・イラスト、原山智 コラム・監修 山と溪谷社 槍・穂高連峰と上高地の地史と、特色ある地質について詳しく解説する。雪渓と氷河との違い、日本の現存の氷河、寒冷地の動植物など、豊富な写真に図を重ねるなど、解り易く示す。
- ⑤  『ぶらり東海・中部の地学旅』 森勇一・田ロー男著 風媒社: 愛知・三重・岐阜・長野・富山・石川・福井県の地形、岩石、化石、鍾乳洞、博物館、石垣など多様な地学・古生物学の話題と解説。
- ⑥  『10万年の噴火史からひもとく 富士山』 曾布川善一 著 山と溪谷社 富士山の成り立ちと周辺の滝、沢、洞穴、氷筈、雲、信仰、修験道などを美しい写真と共に解説する。
- ⑦  『日本 鳥の巣図鑑 小海途銀次郎コレクション』 小海途銀次郎・和田岳著 大阪市立自然史博物館・大阪自然史センター編: 日本一のコレクションを基にした鳥の巣図鑑の決定版。解説も充実。

☆できるだけ早いうちに、いろいろな本に挑戦して、読む力と素養を培おう!!

高校3年生の先輩達の中には、今年度も昼休み・放課後などに継続して図書館で自習している人達があります。中には、高校2年生の時から自習に来ていた人も複数あります。

やはり、高校3年生になると、学習のために読書の時間は制限されがちです。読書の内容も、入試対応のためのものが優先になってしまいます。

中学1年生~高校2年生の皆さん、今の内にいろいろな本を読む挑戦を始めましょう。自分の好きなジャンルの本以外に、学術や社会を知るための入門書、基本書にどんどん手をつけていきましょう。これらの本を読んでおくことが、高校3年生での小論文作成の際にものを言いますし、大学での学びのスタートにも大いに役立つことでしょう。

☆新着本を中心に、いろいろなジャンルの本: 入口正面白いワゴン・高校挑戦本のワゴン

◎伝記、歴史小説2連発、大人も読める児童文学、フランス文学、お金(お年玉)を考えるための本、考古学者の論文とエッセイ集、フィールドワークのための本 冬休みにどうぞ!



- ⑧ 『オッペンハイマー』上・中・下 バード/シャーウィン著 山崎詩郎監訳 河邊俊彦訳 ハヤカワノンフィクション文庫: 原子爆弾開発に関わったオッペンハイマーの伝記。同名映画の原作でもある。
- ⑨ 『坂の上の雲』(一)~(八) 司馬遼太郎著 文春文庫: 明治維新から日露戦争終焉までの時代を、松山出身の秋山好古・真之兄弟、正岡子規の三人の人生と交渉を軸に描く。 推薦図書・高校挑戦本
- ⑩ 『塞王の楯』 今村翔吾著 集英社: 戦国時代の近江(滋賀県)、大津城を舞台に、石工/石垣積職人集団穴太(あのを)衆と、鉄砲を製造した国友鍛冶(かじ)の面々との技術対決を描く。
- ⑪ 『ジーク 月のしずく 日のしずく』『ジークII ゴルドニア戦記』 齊藤洋著 偕成社: 猟師に育てられたジークは、自分が磨いてきた能力と聡明さを生かして運命と向き合う。読み逃していた方、是非どうぞ。
- ⑫ 『ノートルダム・ド・パリ』上・下 ユゴー作 辻昶・松下和則訳 岩波文庫 赤 532-3: 15世紀のパリを舞台に繰り広げられる、美しい踊り子エスメラルダ、鐘番のカジモド、司教補佐フロロ達の物語。この100年で数多く映画化されたが、それらとは違う原作の結末を読んでみましょう!!
- ⑬ 『三千円の使いかた』 原田ひ香 著 中公文庫 寄贈本: 自分らしい心豊かな生活を実現し、維持するためには? 結婚、病気など人生の節目に必ず関わってくる収入と貯蓄の問題に対応するための普段の心掛けや、行動の起こし方などについて、物語仕立てで楽しく読めて、考えるきっかけとなる本。
- ⑭ 『藤森栄一考古学アンソロジー 掘るだけなら掘らんでもいい話』 藤森栄一 著 新泉社: (旧制)中学の時から論文を書き出した藤森さんの論文とエッセイ集。好きな学問を究めたい人、考古学に興味のある人、歴史ファンの人、学芸員を目指す人など、理問問わず皆さんにおすすめする。
- ⑮ 『調査されるといふ迷惑 フィールドに出る前に読んでおく本 増補版』 宮本常一・安溪遊地著 みずのわ出版: 調査の多様な側面とその影響とは。人類学を目指す人だけではなく、医療・行政・福祉など人間を相手にする仕事を目指す人たちに読んでいただきたい本。安溪さんの著作部分は、大事な内容を語る流れの中に、抑えようもなくユーモアがほとばしる文章で、どんどん読めてしまいます。

☆お知らせ:夏休み長期貸出・夏休み開館日程

- ◎夏休み長期貸出受付中: 6冊まで 返却期限日: 8月26日(月)
- ◎夏休み開館 7月26日(金)~8月9日(金)、20日(火)~23日(金) (土日除く)
開館時間: 9:00~16:00

☆「家で本を買い与えて貰っているから、図書館で本を借りる必要は無い」って本当?

これはこれまで一部の生徒や以前おられた国語の先生から言われた言葉でした。本当にそうでしょうか? そこで、図書館担当者が、よく図書館を利用する生徒の皆さんとの会話の中で把握したり、あるいは単刀直入に聞いてみたりして真相を探ってみました。

【図書館担当者が利用生徒の皆さんと会話・質疑応答した結果わかったこと】:

図書館でよく本を借りている人は、家でも多くの本を与えられている。知的好奇心が旺盛で、しかも行動力が高いため、知りたいこと、読みたいものがあれば、手近な学校図書館も上手く利用して知識や読書経験を増やしている。

どうぞご参考に。



☆展示本を入替中:新着図書コーナー半分くらい・白いワゴン(新着・最近着読み物)

寄贈・紹介・リクエストの本をはじめ、物語・ノンフィクション・歴史関係など、1学期に入った図書の展示を進めています。そのほか、高校生のカウンターへの相談・進路希望調査の結果から、希望進路の分野に対応する図書を鋭意選書・購入中です。(建築学科関係の本を展示中です。心理学・教育学・(少年)犯罪関係は展示しきれていません。カウンターに声をかけてください。)



- ①『ノモンハンの夏』 半藤一利著 文春文庫:1939年のノモンハン事件の経緯とその後について、筆者なりの問題意識を以てまとめたもの。ある生徒からの紹介です。
- ②『学問で平和はつくれるか?』 京都大学大学院人間・環境学研究科編 京都大学学術出版会:学問に根差した平和学とは。京都大学の「自由の学風」をも窺い知ることのできる本。
- ③『[図説]ナチスに盗まれた美術品』 J. J. ロリマー他 著 パリジェン聖絵訳 原書房:ナチスが持ち去った美術品を探し当てるスリリングな任務の回想。回収された著名な作品群を見てみましょう。
- ④『父の逸脱 ピアノレッスンという拷問』 ラファエル著 新泉社:虐待の被害を経た医師の手記。
- ⑤『巨樹・巨木図鑑』 小山洋二著 日本文芸社:各々個性的な全国の巨木の姿を見てみよう!
- ⑥『レジリエンス人類史』 稲村哲也・山際壽一・清水展・阿部健一 編 京都大学学術出版会 人類がレジリエンス(=危機を生きぬく知)を発揮してきた出来事をたどり、未来を模索する。



☆読書の苦手な人・中学生にも親しみ易く、しかも上質な読み物を増やしています。

夏休み・読書感想文の課題あり、ということで、読み物の内、半分くらいは読書感想文の書き易そうなもの(皆さんが、読解や感想を深めることに堪える、内容の充実したもの)を意識して購入しました。それに加えて、皆さんの語彙力・漢字を読む力(書くことは、自分で書いて練習する必要があります)を付けることも考えて選書しました。今回増やした読み物は、偕成社文庫・岩波少年文庫からも十数冊選んでいます。豊富な語彙と、主な漢字にルビを付けた紙面で、語彙力と漢字の読み方を楽しく身につけましょう!!

※語彙力・漢字を読む力・国語力と読書:読書せずに漢字のドリルや問題集だけで漢字の読み書き全てを習得するのは、とても大変です。読書を楽しみながら、漢字の読み方を、文脈に即した意味合いも含めて吸収していくのが、最も楽で確実(忘れにくく、正確)な習得方法です。

読書を重ねていると、作文の際も、「書き言葉で書く」ことが無理なくできるようになります。国語の実力のある人は、読書経験も豊富なはず。読書は、国語力養成の軸となる言語活動です。スポーツで言えば、身体作りの基礎練習と練習試合を兼ねたようなものです。読書は好き嫌いに拘わらず取り組みましょう。



- ⑦『古森のひみつ』 ディーノ・ブツァーティ作 川端則子訳 岩波少年文庫 ⑦~⑫:白いワゴン展示中 木々の精や鳥、動物、風の精が交流し暮らす古い森。次第に、登場人物達は互いに抜き差しならない関係であることがわかってくる。やむにやまれぬ思惑からの行動が、思いもよらない運命を導く——読み応えのある物語。
- ⑧『死霊の恋 ポンペイ夜話』 テオフィル・ゴーチエ作 田辺貞之助訳 岩波文庫 赤 574-1 吸血鬼小説の傑作の一つとされる「死霊の恋」など、幻想的なゴシック・ホラー5篇。
- ⑨『供述によるとペレイラは……』 アントニオ・タブッキ作 須賀敦子訳 白水社 白水Uブックス 134 1938年のリスボンを舞台に、ファシズムと対峙する人間達を描く。
- ⑩『ジェニーの肖像』 ロバート・ネイサン作 山室静訳 偕成社文庫 少女ジェニーと出会った青年画家イーベン。イーベン自身の画家としての営みを軸に、イーベンから見たジェニーを感性豊かに綴る。
- ⑪『ぼくたちがギュンターを殺そうとした日』 ヘルマン・シュルツ作 渡辺広佐訳 徳間書店 いじめの挙句、恐ろしいことを企てる利己的な少年達。その時、主人公の取った行動は。
- ⑫『タイムマシン』 H・G・ウェルズ作 雨沢泰訳 偕成社文庫:「タイムマシン」を最初に考え出し、登場させた小説。奇想天外、スピーディな展開で現代文明とその未来の問題点を鋭く指摘する。